

# 大麦特報 (第3号)

平成28年2月  
あおば農業協同組合  
富山農林振興センター

本年産の大麦ほ場は、全体的には適正な葉色が維持されていますが、排水不良による葉色が淡いほ場が散見されます。

◎ほ場をこまめに見回り、停滞水を速やかに排水しましょう。

◎分施の場合、追肥を遅れずに行いましょう。

## 1 排水溝の点検・手直し

大麦は、ほ場内に水が停滞すると、湿害（根腐れ症状）を受け、生育量の不足、収量の減少につながります。

◎排水溝の手直しや増設、排水口の掘り下げを徹底しましょう。



## 2 追肥の実施

この時期の追肥は、大麦の生育を回復させ、適正な茎数・穂数を確保するために重要な作業です。

◎大麦専用基肥一発肥料（LP大麦48号）体系では  
基本追肥しない。

◎分施体系の施肥管理

時期	消雪直後（2月下旬～3月上旬）
施用量	茎数 少～並 硫安 <u>20kg/10a</u> 多※ 硫安 <u>10～15kg/10a</u>

※茎数多：1200本/m<sup>2</sup>以上。